

事例

1

# 「草の根ケアネット会議」について

栃木県 那須塩原市  
地域包括支援センターあぐり

## 基本コンセプトは「草の根」

「草の根ケアネット会議」とは、那須塩原市の旧黒磯市地区で開催している地域ケア会議の名称です。基本的には、毎月第4金曜日の午後4時より開催しています。市内8か所の地域包括支援センターのうち、旧黒磯市地区を担当する4か所の地域包括支援センターが共同で開催する圏域型の地域ケア会議としてスタートしました。

会議に名称を付けた理由は、会議自体に明確なコンセプトと目的を持たせることが必要と感じたからです。地域包括支援センターとして地域へ働きかけるために必要な「草の根」的な取り組み、それを基本コンセプトにしました。

「草の根」のイメージをあえて申し上げるなら「ウリ科の植物」でしょうか。すいか、メロン、かぼちゃ、キュウリ、ゴーヤ、ヘチマ、トウガンなど、スイーツの材料から生活用品まで、様々なところで役に立つウリ科の植物です。

これらの多様な「実」が、地域での生活に必要な支援やサービスと例えるならば、草の根ケアネット会議はこれらの根に栄養を与え、成長を促すことにつながると考えています。また、ウリ科の植物は、地中だけではなく、地表にもツルを伸ばすことで網状に成長していきます。このツルの網は、地域での生活を支えるための「目に見えるネットワーク」に例えられるのではないかと考えています。

「草の根」の後ろの「ケア」も、単に介護のケアだけではなく、Careの意味である「心配、気がかり、気にかけること、注意、手入れ」といった広い意味でのケアとしています。介護などの援助を要する高齢者の支援だけでなく、その家族や地域の支え合い体制、介護予防や社会資源の把握まで、あらゆる内容を気かけ、住民や支援者による注意・配慮・気

配りを促していきたいと考えています。

「ネット」は、関係機関の連携が網状に働き、「高齢者の生活をサポートする仕組み」を考える場を作っていくことを意味しています。

## 会議の目的～専門職が「知見を広げる」こと

草の根ケアネット会議は、地域住民や介護サービス事業所、各種支援団体などが自由に参加することで、ネットワークを構築し、地域の高齢者の生活をサポートできる体制のさらなる充実を図ること、参加者が事例検討を通じて知見を広げることで、支援の発展や新たなサービスの開拓につなげていくことを目的としています。

知見を広めるとは、「見たり聞いたりして新しいことを知る」という意味です。参加者は、自分たちの住む地域の実際のサービス提供事業所や各種支援団体を知ることができ、また、各団体も地域課題をより具体的に知ることで、地域の実情に合わせたサービスを計画していくことにつながると考えられます。

## 事例検討のルール

草の根ケアネット会議は、平成28年1月の初回から平成30年3月まで、事例検討を中心に実施してきました。

事例検討に際しては、事例提供者の負担への配慮と、自分たちでできることを検討するため、いくつかのルールを定めました。特に、以下の発言等に関する禁止・禁句事項については、毎回、開始前に必ず説明を行い、守っていただけない場合には退場いただくこともある旨をあらかじめお伝えしています。

1. 事例提供者や、他の発言者等に対する否定的・批判的な言動
2. 事例提供者を追い詰めるような質問を繰り返すこと（「〇〇はしていなかったのですか?」「〇〇に気づかなかったのですか?」など）
3. 自分たちの支え合いを検討する場なので、「行政になんとかしてもらわないと困る!」といった内容の発言
4. 市役所職員や社会福祉協議会職員等へ、直接対応を迫るなどの言動
5. 「草の根ケアネット会議」に対する批判

## 会議開催にあたって

第1回開催に向けては、「草の根ケアネット会議詳細説明書」をはじめ、「会議出席のメリット図」「会議設置要綱」「事例検討の流れ（マニュアル）」を用意しました。これらの準備を通じて、会議の目的や検討方法を明確にすることがつながりました。

また、出席者全員に事前に会議の趣旨や目的、内容を説明に歩き、初回は約30名の参加者からスタートしました。

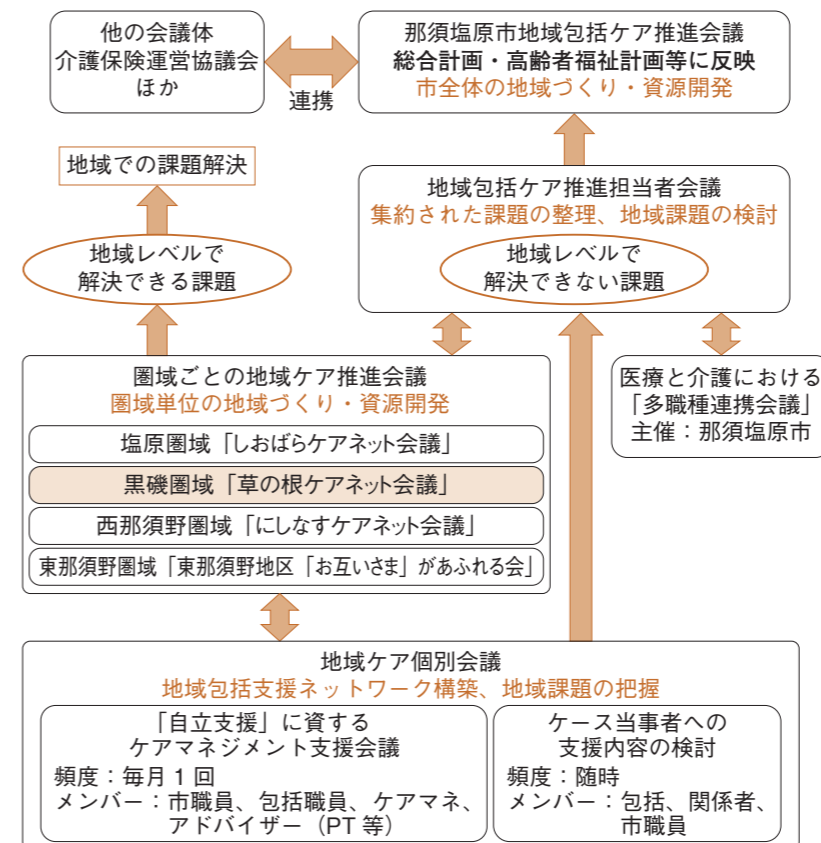
会議の趣旨に賛同いただけることが出席条件であるため、比較的和やかな雰囲気なかで回数を重ねていくことができました。

参加者には、事前に事例のテーマを発表しておくため、その内容によって出席者が異なります。

参加者への開催通知は、FAXやメール、栃木県統一医介連携ネットワーク「どこでも連絡帳」※など、様々な媒体を使っています。参加者の個人的なSNSを通じて、口コミで参加するようになったという方もいっしょに、今の時代、様々な形での広報活動が必要だと実感しました。

※医療・介護の質と安全性を上げることを目的に、ICT

図 「草の根ケアネット会議」と他会議との関係性について



を活用して、在宅医療介護に関わる多職種間及び患者・家族とのコミュニケーションを促進し、人と人の連携を深めるために用いる栃木県統一「医介連携専用ネットワーク」。「完全非公開型 医療介護専用SNSメディアカルケアステーション（MCS）」を使用。

会場は公民館を無料で使わせていただいております。会議開催にあたっては、印刷や通信費以外、極力費用をかけずに行えるようにしています。自由参加を基本とするため、出席者や事例提供者に対しての謝金などの支払いは、一切行っていません。

## ネットワークの構築とは、人脈を広げること

会議出席者からの感想で一番多く聞かれるのは、「自分の知らない分野のことを知ることができた」「グループワークを通して、顔の見える関係ができた」といった内容です。また、会議を通じて知り得た知識や、知り合えた人たちとの交流が、後々の支援に役に立ったとも伺います。人脈を広げることが、問題解決能力の向上につながったと考えられます。

会議を通じて明確になった地域課題は、議事録として市役所と市社会福祉協議会へ提出します。その課題を地域ケア推進担当者会議で集約し、地域ケア推進会議で検討するという流れとなっているものの、行政がどのように地域課題に対して取り組んでいくか、いまだに明確な答えが見つからないのが実態です。

平成30年4月以降は、共同で実施している4つのセンターが、3か月ごとにテーマを定めて開催するようになりました。3か月1クールとして開催することで、地域課題をより深く検討することや、課題解決に向けた取り組みが行えるのではないかと考え、開催方式を変更しました。

続けていくことこそ、地域の役に立つ地域ケア会議になると思われるため、形式を変えながらも、今後も継続していくことができるよう願っています。